



地下水資源開発集団研修コース 昭和60年度の地下水資源開発集団研修コースは アジア 中東 アフリカ 中南米の発展途上国 11か国から11名の研修員を受け入れ 例年のように 8月27日に開講した。研修員は 水理地質学 土木工学をはじめとする 広い範囲にわたる専門家であるが いずれも地下水資源開発に直接従事している 第一線の中堅技術者である。

研修は 12月中旬までの約4か月間にわたり 地下水開発及び地下水管理の技術分野について 応用面に重点を置き 実践的な野外実習や室内演習を多く取り入れて実施する。とりわけ 野外実習は 地下水探査から揚水試験までの一貫した実習を 研修員自らの手によって実施し 研修の効果を高めることを目指している。

ここに 研修の開始に当たって 今年度の研修員の略歴を紹介する。なお イラク ネパール フィリピンからの研修員3名は女性である。

- ① サリム (トルコ) [Salim Yüzereoğlu]
1954年生 ハジテフェ大学地質学科 修士課程卒 トルコ水力局勤務の地質専門家
- ② インティサー (イラク) [Intsar Faraj Ilias]
1959年生 理科大学地球化学科卒 イラク地下水局勤務の地質専門家
- ③ ホセ (パナマ) [Jose Alberto Diaz Luna]
1956年生 パトリシオ・ルモンパ大学(ソ連)土木工学科卒 パナマ排水局勤務の土木技術専門家
- ④ ラマ (ネパール) [Rama Shrestha]
1950年生 トリ・チャンドラ大学地質学科 修士課程卒 ネパール灌漑水利局勤務の水理地質専門家
- ⑤ リカルド (ボリビア) [Ricardo González L.]
1951年生 トーマス・ファリアス大学土木工学科卒ボリビア地方開発公社勤務の土木技術専門家
- ⑥ アデマロ (ブラジル) [Ademar Tokio Ogawa]
1951年生 サンパウロ大学地質学科 修士課程卒 ブラジル水資源電力局勤務の地質専門家
- ⑦ アデュ (ガーナ) [Adu Gyamfi Donkor]
1946年生 理工科大学機械工学科卒 ガーナ上下水道公社勤務の鑿井技術専門家
- ⑧ ユーリー (フィリピン) [Yulie Q. Dacara]
1955年生 アダムソン大学地質学科卒 フィリピン水資源庁勤務の地質専門家
- ⑨ ビサン (タイ) [Pisan Kayansumruaj]
1954年生 王立モンクット工科大学土木工学科 チュラロンコン大学衛生工学科 修士課程卒 タイ地方開発促進局勤務の土木技術専門家
- ⑩ ファルク (バングラデシュ) [Faruque Ahmed]
1951年生 チッタゴン大学土木工学科卒 バングラデシュ

水開発局勤務の土木技術専門家

⑪ ロビニーリナ (マダガスカル)

[Aubert Remi Robinirina]

1949年生 工科大学水理地質学科卒 マダガスカル水道水理地質部勤務の水理地質専門家 (野間)



地下水資源開発集団研修コースの研修員
地質調査所ロビーにて/85.8.30

HELP HELP!! わが国は短期間の滞在であれば 大部分の国に対しては ビザが必要といたしませんので ほとんどの人はあまり注意を払うことがないと思うのですが 特定の国や目的に対しては ビザが必要となります。ここで注意しなければならないことは 申請した書類通りビザが発給されているかという点 必ずしもそうとは限りません。本人入国後のビザ延長手続きは 決して不可能なことではないのですが 書類その他が繁雑で 時間の浪費とイライラは精神衛生上好ましいこととは言えません。

先日も 8月31日入国 9月11日まで滞在ということである外国人のビザ発給を申請したところ 御本人はすでに8月29日に来日しており しかもどこをどう間違えたのかビザ有効11日間とされていました。それに気がつき 大あわてで延長手続きを開始したのはいいのですが 本人出頭が必要というのに あいにく本人は地方の山の中に出掛けて不在。ようやくのこと連絡がついたのは土曜日の朝。もっとも近くの入国管理事務所がある県庁所在地までは列車で片道3時間。大急ぎで行っても間に合いません。おまけに本人の帰国の航空券の日付は9月14日。延長申請書類の日付と符合しません。可能な限りの手段を講じましたが アーヤンぬるかな。残念ながら行動予定の後半3日分を残したまま 本人は滞日有効期限ギリギリの11日目に 海外室のスタッフがキャンセル待ちでようやく手に入れた座席を確保し 機上の人となりました。

読者の皆さん 外国人の受け入れにはビザの確認がまず必要です。よ。老婆心ながら。 (田口)